

第五十六回 宗像歌会

平成三十年九月十六日(土)

自由詠

一瞬にして

宮島 かつえ

山肌がずり落ちた

山津波!!

広大な大地の

悲鳴が聞こえる



秋風が

今 通り過ぎたと

稲穂が ゆれる

災い残し

時 うつりゆく

山本 佳代子

題詠 『お菓子』

「ぼくーこー」と答えた2歳児

貰った飴玉をガリガリ

ポランティア精神貫く

発見した ねじり鉢巻きおじさん

爽やかな風が吹く

大槻 幸子

朝、窓を開ける
胸を開いて
夏の空気を
秋の空気に
入れ換える

杉下 啓恵



鬱蒼とした里山の

日陰の脇径

ここはもう秋

日の当たる小径は まだ夏

二つの季節を歩く

杉本 明美

三度の食事は
しっかり取って
間食はしない!と
決めては いるが
お菓子みるたび 心が揺れる

山本 佳代子

草冠が

菓子にあって

果物にない

逆ではないかと思ひながら

菓子を食べる



果の象形文字
木に実がついている
形。木の実をいう。

自分で手に負えないとき

頼ってしまう

年年 優しくなって来る息子

携帯で繋がる

心安らぐ日々



大槻 幸子

杉本 明美